

## 29日 木曜

### テサロニケⅡ

2:1 さて兄弟たち。私たちの主イエス・キリストの来臨と、私たちが主のみもとに集められることに関して、あなたがたに願います。

2:2 霊によってであれ、ことばによってであれ、私たちから出たかのような手紙によってであれ、主の日がすでに来たかのように言われるのを聞いても、すぐに落ち着きを失ったり、心を騒がせたりしないでください。

2:3 どんな手段によっても、だれにもだまされてはいけません。まず背教が起こり、不法の者、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないのです。

2:4 不法の者は、すべて神と呼ばれるもの、礼拝されるものに対抗して自分を高く上げ、ついには自分こそ神であると宣言して、神の宮に座ることになります。

2:5 私がまだあなたがたのところにいたとき、これらのことをよく話していたのを覚えていませんか。

2:6 不法の者がその定められた時に現れるようにと、今はその者を引き止めているものがあることを、あなたがたは知っています。

2:7 不法の秘密はすでに働いています。ただし、秘密であるのは、今引き止めている者が取り除かれる時までのことです。

2:8 その時になると、不法の者が現れますが、主イエスは彼を御口の息をもって殺し、来臨の輝きをもって滅ぼされます。

2:9 不法の者は、サタンの働きによって到来し、あらゆる力、偽りのしるしと不思議、

2:10 また、あらゆる悪の欺きをもって、滅びる者たちに臨みます。彼らが滅びるのは、自



分を救う真理を愛をもって受け入れなかったからです。

2:11 それで神は、惑わす力を送られ、彼らは偽りを信じるようになります。

2:12 それは、真理を信じないで、不義を喜んでいたすべての者が、さばかれるようになるためです。

初代教会の時代には、イエス様の再臨に関して両極端な間違った考えがありました。一つはペテロの手紙にあるように、「来臨の約束はどこにあるのか」というような否定と、一つはここにあるように、「主の日がすでに来たかのように」言う行き過ぎです。

現代でも似たようなことがあり、前者は不信仰を起こし、後者は異端を生み出します。私たちは「だまされないように」しつつ、現代社会にある「不法の秘密」すなわち、半キリスト的な「滅びの子」を産み出す思想や風潮などに気をつけなければなりません。

それには「御霊による聖めと、真理による信仰」が重要です。世にあるものを何でも受け入れるのではなく、主のみこころによって見分けるようにしましょう。そのようにして、この終りの時に惑わされないようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

